



GOOD NEWS ときのことえ



「家族に赦してもらおうチャンスは得られなかったけれど、わたしは、」

「本当は、捨ててきた家族に赦してもらいたい。」

「声をかけてくれた女の子のおかげで今がある、」

「生きてきて良かった」と何度も繰り返しは、わたしに言っていました。

その彼の最晩年、癌のために余命二週間と宣告された時、見舞うわたしに、彼はこう告げました。

「本当は、捨ててきた家族に赦してもらいたい。」

わたしは、

「家族に赦してもらおうチャンスは得られなかったけれど、わたしは、」

「誰もわたしのことなんて心配していない。」

「生きていてもしかたがない。」

「生きていてもいいことなんて一つもなかった。」

苦勞ばかりの人生を、がんばってもがんばっても希望が見えず、これ以上はがんばれない、と三段壁にやってくる人々の声にわたしは耳を傾け続けてきました。

聖書に、イエスが孤独な男・ザアカイに声をおかけになった記事があります。

「今日、救いがこの家を訪れた。(略)人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

(同9、10節※人の子とは、イエス・キリストのこと)

イエスは今も、孤独と諦めの中で苦しむ人々を捜し出し、「あなたの心に入りたい」と願っておられます。あなたの心にも、です。

さらにイエスは今、あなたに、「孤独な心」に寄り添う人、その声に耳を傾け続け、苦しむ人々に「生きていてほしい」と伝える人になってほしい、と願っておられるのではないのでしょうか。

(自派バプテスト基督教教会牧師)

Photo credit: Tetsuhiro Terada on VisualHunt / CC BY 白浜・三段壁

War Cry

11月号

福音版
2020
November
No.2808

孤独な人々の声に耳を傾け続ける

藤藪 庸一

和歌山県白浜町にある観光名所・三段壁。ここには、眼前に広がる大海原を満喫するために来る人々と共に、その海を人生最後の景色にするために来る人々が立ちます。

ある六十五歳の男性は、三段壁で三日間、トイレの水だけを飲み、死ぬことだけを考えて断崖に座り続けます。

ました。けれども、死ぬ決心のつかないまま、とうとう一文無しになり、ただ夕方暮れていたのです。いっそそのまま野たれ死ぬのを待とう、と考えていた四日目の夜、目の前を数人の女性を通り過ぎ、何を思ったのか、その中の一人が彼のもとに戻って来ると二千円を手渡してこう言い

ました。

「馬鹿なこと、考えたらあかんよ。死んだらあかんよ。」

彼は、そのお金で食事をとり、元氣を取り戻してから、わたしの教会の「いのちの電話」に電話をかけてきました。彼は保護され、わたしのもとで共同生活をしながら生活を立て直し、ホテルのナイトフロントの仕事も得ることができました。そして、仕事に励んだ七年後、脳梗塞で倒れましたが、療養生活の三年間も、白浜でできた友人たちとの交流を楽しめる生活を送ることができました。彼は、

「誰もわたしのことなんて心配していない。」

「生きていてもしかたがない。」

「生きていてもいいことなんて一つもなかった。」

苦勞ばかりの人生を、がんばってもがんばっても希望が見えず、これ以上はがんばれない、と三段壁にやってくる人々の声にわたしは耳を傾け続けてきました。

聖書に、イエスが孤独な男・ザアカイに声をおかけになった記事があります。

「今日、救いがこの家を訪れた。(略)人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

(同9、10節※人の子とは、イエス・キリストのこと)

イエスは今も、孤独と諦めの中で苦しむ人々を捜し出し、「あなたの心に入りたい」と願っておられます。あなたの心にも、です。

さらにイエスは今、あなたに、「孤独な心」に寄り添う人、その声に耳を傾け続け、苦しむ人々に「生きていてほしい」と伝える人になってほしい、と願っておられるのではないのでしょうか。

(自派バプテスト基督教教会牧師)

二〇二〇年 十一月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

創立者 ウィリアム・ブース

大將 フライアン・ペドル(万国本営 英国ロンドン)

日本司令官 ケネス・メイナード(救世軍本営 東京都千代田区)

<https://www.salvationarmy.or.jp>



世界をみつめて

〈英国〉山室軍平の映画が受賞!

日本人で最初の救世軍士官(伝道者)山室軍平の生涯を描いた映画『地の塩 山室軍平』(東條政利監督、英題・THE SALT OF THE EARTH)が、英国で開催された「ロンドン I WILL TELL 国際映画祭」(8月30日~9月9日)で、「ヴァンガード賞」を受賞しました。また、山室軍平を演じた森岡龍さんが主演男優賞を受賞、軍平の妻・機恵子を演じた我妻三輪子さんは主演女優賞候補にノミネートされました。

授賞式には、オンラインで東條政利監督、森岡龍さん、我妻三輪子さんが登壇。審査員は、「この映画は、信仰をもつ1人の男の葛藤と情熱を描いた、まれに見る映画だ。信仰的な映画だが、そのメッセージは、クリスチャンでない人や宗教をもたない人にも理解できる」と講評しました。

東條監督は、受賞スピーチで「自分は山室軍平の生涯から靈感を受けた。山室の抱いた信念を日本の人々に知ってもらいたいと願い、この映画を製作したが、この作品が海外に渡っていることに驚いている」と語りました。

また、森岡さんは受賞スピーチで、「山室は使命に生涯を尽くし、大きな感化を残した。山室は『最も大なるものは愛である』と言った。この作品を通して、困惑と不確かさに満ちた世界に、愛のメッセージが伝わることを願う」と話しました。



発行日 福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

定価 福音版 四〇〇円
広報版 二部 一〇〇円
クリスマス特集号(十一月一日号) 一部 一〇〇円
振替 〇〇・八〇・五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍
代表者 ケネス・メイナード
編集人 寺澤 眞由子

〒101-0051 東京都千代田区
電話 東京 03-3337-0811
神田神保町1-7-17
印刷所 救世軍本営
ピーアンドエス

〈全世界〉新型コロナウイルス感染拡大に対する取り組み(続報)

●日本では、
○東京・錦糸町にある江東小隊(教会にあたる)では、3月と5月~6月初めまでおこなった「こども給食」を再考し、定期的(毎月第3金曜日)に「こども食堂 マナ」を開催することになりました。栄養豊かな食事を安価で提供し、コロナ禍にある子育て家庭を支援するとともに、近隣のニーズにこたえたいと願っています。

「こども食堂 マナ」の第1回が、9月18日におこなわれました(当分弁当での食事提供の予定)。食事支援の再開を楽しみにしていた、との反響や、活動に賛同して寄付をしてくださる方があり、50食が完売しました。

今回、かつて救世軍の保育園があった砂町銀座商店街の天兵様と梅村様、東宝青果様が、弁当の食材提供に協力



してくださいました。

また、食事支援活動のために、フードバンクBOX(家庭にある賞味期限内の余剰食品等を回収)を入口に設置し、地域からの食品提供の協力を募っています。



●リベリア共和国では、

西アフリカのリベリア共和国は、現在就学率4%、識字率48~52%という現状にあり、子どもたちへの教育が深刻な課題です。救世軍は、1992年に学校を設立し、青少年に良質な教育機会を提供してきました。コロナ禍ではオンラインなどの在宅学習のための環境を整備し、現在は、最終学年の生徒のみ校舎に迎え、約9割が登校しています。これからもさらに安全で、有意義な学習体制を構築していきます。(写真・学校に入る前に手を洗う生徒等)



救世軍とは? What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界131の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースによって始められ、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895(明治28)年に始まり、伝道の拠点である小隊(教会にあたる)を開設。廃娼運動、失業者対策、病院の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて、様々な働きを興してきました。

また、冬の風物詩、俳句の季語となっている歳末助け合い募金「社会鍋」は、今年111年を迎えます。募金開始前にあたる11月30日は、「社会鍋の日」に制定されています。

発行日及び定価
福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

定価 福音版 二部 四〇〇円
広報版 二部 一〇〇円
クリスマス特集号(十一月一日号) 一部 一〇〇円
振替 〇〇・八〇・五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍
代表者 ケネス・メイナード
編集人 寺澤 眞由子

〒101-0051 東京都千代田区
電話 東京 03-3337-0811
神田神保町1-7-17
印刷所 救世軍本営
ピーアンドエス

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではおられません。これらの問題ではお話しは、右救世軍にご相談ください。

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書発行委員会 ©日本聖書協会



写真上より・白浜バプテスト教会
・クリスマス礼拝後、昼食に集った方々
・教育支援活動「はじめ人間自然塾」の農業体験



その子らしき個性というものは、一定の枠で四角

キトリ
ご住所

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の救世軍にお送りください。

わたしたち夫婦が自殺志願者と共同生活することになったきっかけは、白浜に赴任して二人目の自殺志願者からの電話でした。当時二十六歳だったわたしが三段壁に現れた時、四十八歳のその方は、「お前に話してもどうしようもない」とわたしを追い返そうとしました。夕方から何を言われても彼から離れずに一晩中過ぎ、翌朝、「うちに来ないか？」と声をかけると、彼は、「本当に行ってもいいの？」と答えました。けれども、いざうちに来て、彼に帰る場所がないことがわかったと、わたしの中に葛藤が生じました。本当

イエス様の愛を知ってもらうために…… 葛藤と決断の日々を重ねて

わたしは、この見ず知らずの男性と一緒に暮らすのか？ 妻と幼い子どもとの共同生活ができるのか、と。一瞬、「しまった」と思いましたが、帰る場所のない彼と共同生活をする決断・覚悟をしました。それは、わたしだけでなく、家族にとっても大きな決断で、まぎれもなく、追い込むように神様がわたしたちの決断・覚悟の背中を押しした瞬間でした。こうして「イエス様はあなたを愛しておられるよ」ということを、言葉だけでなく、家庭のすべてで表す生活が始まりました。それは、常に葛藤と決断を繰り返す日々でした。

自分の無力さや弱さを味わい、時には、人間関係や働きの忙しさに身動きが取れないような状態になることもありました。また、共同生活をしている人々が自立のために仕事を始めることは大変です。人間関係がうまく築けない方向調に前進していると思っていた矢先に酒やたばこ、ギャンブルでそれまで築いてきたものを失ってしまう方もいました。生活の自立には、自分で働いてお金を得ることが肝心なので、就職や住む場所につなぐまで、一人ひとりにずっと寄り添ってききました。

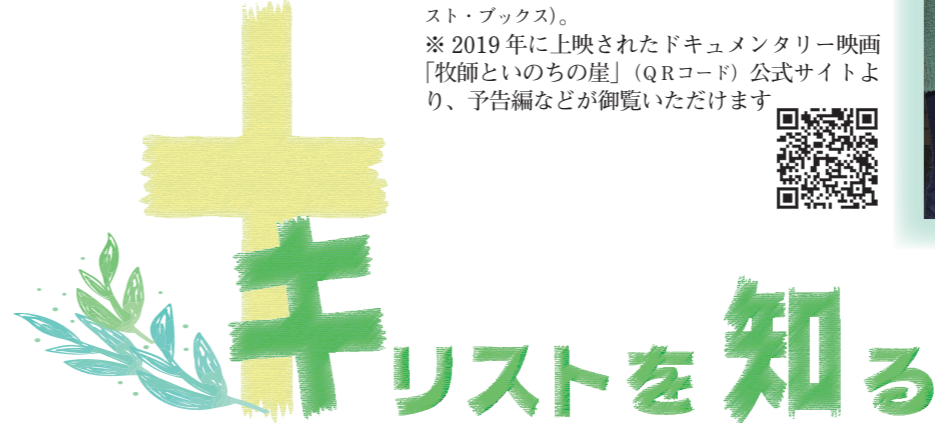
支援の働きは、二〇〇六年「白浜レスキューネットワーク」というNPO法人となり、就労支援のための宅配弁当屋「まちなかキッ

チン」を始めました。神様は、いつも必要な人材を三段壁から救出した方々の中から与えてくださいました。調理を指導する方は元料理人、NPO法人設立書類を作ってくれた方は元経理部

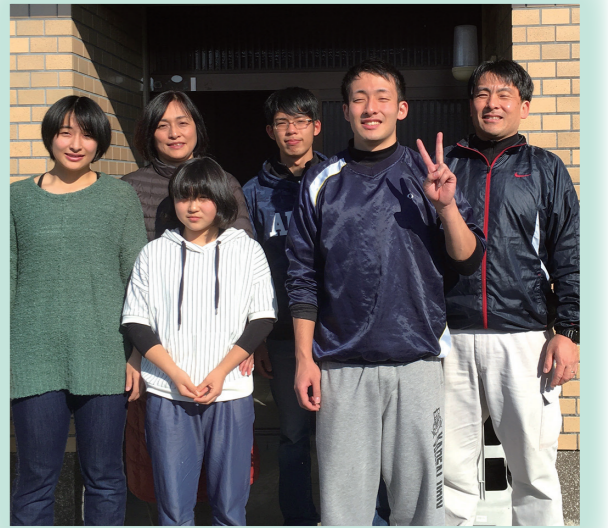
子ども時代が人生の土台をつくる、と将来に備えて子ども支援を開始

く困っても、絶対に消えませんが、お金が無くなった時に、孤独に気づかされ、生きづらさから死を選ぶのでは、と心配しています。この二十一年、教会がもつと地域に出て行かなくては、と積極的に出て行き、地域で託される役割を果たしてきました。けれども、孤独の蔓延する今、これからは、教会が一つのコミュニティ、救済と愛によってつながる家族となつて、周りの人々を迎えるような場所になるべき時なのではないか、と示されています。わたしは、夢と志をもって進むことの大切さをいつも語ってきました。コミュニティとしての教会の姿は、わたしの新しい夢です。実は、七月末に突然体調を崩し、今も治療の途上にあります。三月以来、観光地である白浜のみなさんと協力しつつ、コロナ禍での働きを支え合ってきました。以前のように動けない今こそ、と改めて十年、二十年先の教会と白浜の姿を思い描いています。

信仰の体験談 あかし証言のページ



<プロフィール>
東京基督教大学神学部卒業後、1999年に白浜バプテスト教会に赴任。教会として「いのちの電話」での相談や共同生活をおこなう。その後、NPO法人「白浜レスキューネットワーク」を設立し、自立をめざす人々への支援活動としての弁当屋「まちなかキッチン」、自殺予防としての「放課後クラブ コペル君」をおこなっている。(写真・ご家族と。右端 藤敷さん→)
2012年には、NHK「プロフェッショナル」で、自殺予防活動が取り上げられた。著書『あなたを諦めない 自殺救済の現場から』(フォレスト・ブックス)。
※2019年に上映されたドキュメンタリー映画「牧師といのちの崖」(QRコード)公式サイトより、予告編などがご覧いただけます



牧師・NPO法人理事
藤敷 庸一さん
(1ページメッセージ執筆者)

昨年一月、「牧師といのちの崖」(配給・ドキュメンタリージャパン、加瀬澤充監督)という映画が上映されました。和歌山県の観光名所・三段壁で自殺志願者たちを救う活動を続けている藤敷牧師に密着した映像は、現代社会の課題と希望を映し出しています。藤敷牧師が、語ってくださいました。

金銀はもっていないけれど、わたしにできることがある！

「牧師になりました。これは小学校一年から教会に通い始めたわたしの将来の夢でした。テレビで見た難民キャンプの悲惨な状況に衝撃を受けて貯め始めた募金に、自分の生活を何も犠牲にしていと気づいたこと、『ビルマの竖琴』を読み、主人公のように誰かのために犠牲を払う生き方をした、と願ったことも、今につながっています。

教会で困っている人を助けている 恩師の姿が牧師のモデルに

自殺予防活動の「いのちの電話」は、通っていた白浜バプテスト教会の江見太郎牧

師が一九七九年に始められたものです。先生は、三段壁の崖に電話番号を書いた看板を設置して、自殺志願者からの電話を受けておられました。教会では、突然江見先生に息子さんと娘さんができて、その後突然いなくなるということがありました。それは、「いのちの電話」を通じて出会った方々のお子さんたちでした。お子さんたちを預かり、両親の生活が立て直されるのを待っておられたのでした。やがてそのお子さんたちはいなくなったので、両親の生活のめどが立たないのだと思います。教会を訪ねると、泣いている女性や、寝ている男性をよく見かけました。教会で困っている人を助けている江見先生の姿は、わたしにとって牧師のモデルとなつていったのです。

先生は、説教でもよく、明治・大正期のクリスチャンたちが、苦しむ人々を助けていた話をしてくださいました。長！ 神様からの応援のようでした。収益事業となる仕事への厳しさと責任も生じ、神の赦しの愛と同時に、正義を貫く神の厳しさも必要でした。そこで、自分の生き様も問われました。



写真上より「牧師といのちの崖」チラス、三段壁に立つ「いのちの電話」の看板